

Title	理財学会会報
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.2 (1914. 3) ,p.252(126)- 254(128)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑報
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140300-0126">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140300-0126</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に對する方策を論じ國際間の協力、自由金市場と恐慌の二項を増補し自由金市場たる倫敦が他國の恐慌救済に重要な地位に在ることを述べたり、尙其他全篇に互に統計を總べて最近の數字を以て更へられたり。

以上は新版の増訂部分を概略摘記したるに過ぎず、蓋し本書の價值に就ては世既に定評あり敢て贅せず、終りに臨みて巻頭各節下の項目を増補し讀者に其の要領の暗示を與へらるゝに努められしが如き、用語と共に可及的原語を附して彼我對照を便にし且つ原書繙讀の用意を與へられしが如き後進を指導するの厚きに感謝して筆を擱くものなり。(千金良宗三郎)

### 理財學會々報

理財學會組織變更 元來理財學會なるものは、堀切教授が未だ本學學生たりし頃同志の學生と共に、明治三十六年三初めて組織したるものにして、其の目的は純理經濟學を研究、時事問題を討議すると同時に時々講演會を開き、朝野知名經濟學者又は財政家を招聘して、其の説を聞く事にありき。として理財學會なるものは漸時隆盛に赴きしも、其の後堀切教授は卒業し、直ちに歐米留學を命ぜられしを以て、理財學會も從つて振はず、何時か其の目的は變更せられて、只時々例會大會なる名の下に講演會のみを開催する事となり、學生の討論究は再び行はれざるに至り以て今日に及びぬ。

會員とし後者を特別會員とす

一、本會は毎月一回雜誌を發行し會員に配付す

一、通常會員の會費を一ヶ年金壹圓八拾錢とし之を三回に分ち授業料と共に會計部に納付する事とす

一、特別會員の會費は一ヶ年金貳圓とす

且本會は毎學期一回講演會を開き、會員に傍聴せしむ、又學生の勉學を奨励し、卒業生諸君の研究の結果を發表せん爲め、會員諸彦の寄稿を希望す。

◎第六十七回理財學會秋季大會 大正二年十月十一日第六十七回秋季大會を三十二番講堂に開催す。帝國大學法科教授法學博士山崎覺次郎氏は「金貨の流通せざる金本位國」なる演題を掲げて、酒々數千言、我國の貨幣制度を論じ、直輸入商堀越善重郎氏は「産業に對する銀行業者の責任」なる演題の下に、振はざる我國今日の産業を隆盛ならしむるは銀行業者の責任なりと論じ、勸業銀行總裁志村源太郎氏は「獨立自尊と産業組合」と題して、獨立自尊の産業組合に必要な所以を詳論し内務省商工局長岡實氏は「生産力の増進に就いて」なる演題を掲げて、今後我國運の發展は、之を生産力の増進に俟たざる可からずとて、生産要素たる土地、資本、勞力の我國に於ける狀態を詳論して、工業を以て生産力の増進を計るに最も適せる所以を論及し、斯くて最後に、高等商業學校教授法學博士志田鉦太郎氏は「支那問題に就いて」と云ふ時事問題の下に、博士が支那

隣つて三田學會雜誌を見るに、經費の都合上時々發行を停止し、明治四十三年頃は會員組織の下に月刊雜誌たりしも、學生の入會は任意たりしを以て、經費問題の爲め、一時發行を停止し、其の後明治四十五年に至り、高城教授を編輯主任とし、裝釘を新にし、四季刊として發行を繼續するに至りぬ。然れども發行部數多からざりしを以て、常に經費問題の爲めに諸種の困難に遭遇したり。

近來理財科學生中に理財學會の組織目的を會得する者少なく且亦幹事も其の目的の常道を逸したるを知り、之を改正せんと議論を生じたる所、三田學會雜誌を理財學會に於て經營しては如何との議論を生じれば、本會は理財科學教授の賛同を経會の組織を變更して、理財科學生全部を包含する會員組織のものとなさんとし、理財科學生全部の賛成を得、茲に新に會員組織の理財學會なるものを組織するに至りぬ。而して本會の主たる事業として、三田學會雜誌を引繼ぎ、堀江、高城兩教授を編輯主任とし、石田義塾幹事を會計監督とし、月刊雜誌として大に其の發展に勉め本學大學の機關雜誌として、學界に重きを爲さん事を期するに至れり。

次に本會組織の概要を擧ぐれば

一、本會は理財學會と稱す

一、本會は經濟に關する學術の研究を目的とす

一、本會は理財科學生全部及び塾員有志よりなり前者を通常

にありて實地見聞せる所より、支那の現状の渾沌たる所以を説き、此狀態は今後數百年を経過せざれば止まざるべく、支那問題は今より漸時發展するものにして、今日は只其の端緒なりとて、詳細に支那の現状より將來を論述して、午後六時拍手喝采の内に無事閉會す。閉會後志田博士を主賓として、舊ヱイカースホールに晚餐會を催し、主客歡を盡くして十時散會せり。

◎鎌田塾長並堀切教授歸朝歡迎會 去る大正二年五月中旬世界漫遊の途に上られし鎌田塾長は十一月十六日、又七月上旬帝國議會の代表として、ヘーグ萬國議員會議に參列せられし堀切教授は同十一日無事歸朝せられたるを以て理財學會は其の歡迎會を十二月十一日午後六時より舊ヱイカースホールに開催す。宴會なるに及んで、鎌田塾長は滿面に笑を湛へつゝ、漫遊中の所感を語られ、然に米國に於て、舊本塾教授ヱイカース先生より鄭重なる歡迎を受けたる次第を述べられ、次で堀切教授は「今同は學術觀察には非ざるを以て、諸君に敢て話すべき所非ざるも、獨逸に於て、バルカン問題に關し、獨逸人と論議せし所あるを以て、其顛末を御話せん」とて

「獨逸在留中、一獨逸人がバルカン戰爭に對する私の所感を尋ねし時、私はブルガリヤは暴虎馘河の勇に乘じて、少々戰爭をやり過ぎた概がある。其の結果同盟國の同情を失ひ、損失を蒙つた。若し日本が勃牙利であつたならば、日本は止るべき所で止り、勝つて兎の緒を締めるの手段に出たであらう。

彼の日清戦争後露、獨、佛三國干渉の起るや、日本は止るべき時なるを知つて、三國の要求を容れて、遼東半島を還附し、勝つて兎の緒を締めて、十年後好時期を得て露國を破り、舊年の怨を報いたではありませんか。日本の行ふ所は斯の如くである」と答へた。斯く論破して彼の獨逸人を感服せしめた」と教授一流の雄辯を揮はれ、斯くて塾長教授を中心として、雑談に夜を更かし、十一時頃解散したり。

◎第六十八回理財學會例會 十一月二十一日午後六時より三十四番講堂に於て第六十八回例會を開催す。會計検査官工藤重義氏は「相續税に就いて」なる演題の下に、我國現行の相續税法の缺點を指摘論評し、福田教授は「經濟統計の不振を論じて利潤統計の研究に及ぶ」と云ふ演題の下に、我國に於て經濟統計の振はざるを評し、大に統計の經濟學上必要なる所以を説き、殊に利潤統計は、株式會社の研究に對し最も必要なりとて滔々二時間に亘る大雄辯を振ひて十一時散會す。

## 三田學會雜誌 第八卷第三號

### 論 說

#### 大企業に於ける兼業の發達 (三、完)

氣 賀 勘 重

#### 四

今熟々近世の大々的企業が如上の原因よりして種々の事業を兼營するに至る其兼業の方法を觀れば主として從來の本業と前後相關聯せる産業即ち生産の經過上、本業の前位又は後位に在るの産業を兼營するに外ならざること前述の如く、而して是れ此種の兼業に對して縦面的企業合同(Vertical Trust)の名稱の附與せらるゝ所以なれども併し市況の變動に對する自家の安全の保證と生産的技術上に於ける幾多の便利利益の獲得との兩目的に出づる大企業の兼業は決して一種の原料